

新規就農者による取組事例(能登島に移り住み、夫婦で力を合わせ、二人三脚で野菜のおいしさを伝える) [石川県七尾市]

1. 地域農業の状況

○ 七尾市の能登島地域は、石川県七尾市の七尾湾中央部に位置する島。(面積46.78km²、周囲長71.9km)

○ 一島一町(能登島町)だったが、平成16年10月1日の市町村合併により七尾市となり、地域は能登半島国立公園に含まれる。

○ 葉たばこ栽培が盛んな地域であったが、喫煙人口の減少等による需要の減少により廃作と離農が増加し、これに代わる新たな作物が見いだせない中で荒廃農地が増加していた。



2. 荒廃農地解消の取組

取組主体 新規就農者(現在はNOTO高農園)

地区名 能登島地区

再生面積 3.8ha(経営面積22ha)

取組年次 平成22～26年

作付作物 じゃがいも、黒キャベツ等

販路 レストランや飲食店等

能登島に移り住み、夫婦で力を合わせ、荒廃農地を再生し農業で大成

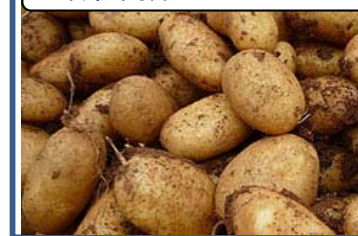
○ 能登島で有機野菜を生産するNOTO高農園は、石川県金沢市出身の夫と、鹿児島県出身の妻が平成12年に設立し、安全性と味にこだわった有機栽培を実践している。周りを穏やかな海に囲まれた能登島に脱サラして移り住んで新規就農して以来、2年目には石川県からエコファーマーの認定、その翌年には有機JASの認定を受け、平成18年には認定農業者となった。そして、平成24年には「人・農地プラン」の中心経営体に位置付けられている。

○ 約2haの荒廃農地を借り受けて経営をスタートした当初から、国の交付金を始め、「いしかわ産業化資源活用推進ファンド(県単独事業)」や「いしかわ農林漁業人材雇用創出事業(同)」の支援を受け、着実に規模を拡大し、現在の経営面積は約22haとなっている。

ミネラル豊富な能登島の赤土を生かした農法で、「お客様のニーズに合わせる」農業スタイル

○ 看板商品のじゃがいもを中心に、ミネラル豊富な能登の赤土で育った黒キャベツ、赤ダイコン等のカラー野菜等の栽培に力を入れているが、特に料理を美しく彩るエディブル・フラワー(食用花)やカラー野菜は、ウェディングを手がけるフレンチやイタリアン等のシェフからの引き合いも多くなっている。

看板商品のじゃがいも



○ 高さん夫婦は、「育てた野菜を全て食べてほしい」との思いを込め、日々、二人三脚での有機栽培の充実に一層の磨きをかけており、このような取組が評価され、「第41回毎日農業記録賞」(平成25年)において、最優秀賞・新規就農大賞を受賞している。

活用した支援策

H21～26 耕作放棄地再生利用緊急対策交付金(国)(再生作業、施設等補完整備)

H21 いしかわ産業化資源活用推進ファンド(県)(試験栽培、レストランへの試供品の提供)

H21, 23 いしかわ農林漁業人材雇用創出事業(農業分野)(県)(スタッフ雇用)

再生されたミネラル豊富な農地



収穫された野菜



新規就農された高さん夫婦



大根(能登むすめ)



左から:黒キャベツ、パープルヘイズ、ルタバガ、ちりめんキャベツ